

常磐公園 植栽計画市民ワークショップ(第2回) 会議録

日時 : 平成26年10月21日(火) 18:30~20:15
会場 : 旭川市保健所1階講座室
出席者 : 地域住民 12名
 : 専門家 2名(オブザーバー)
 : 事務局 7名(旭川市公園みどり課3名、(株)建設技術研究所4名)
配付資料 : 議事次第
 : 出席者名簿
 : 第2回 常磐公園 植栽計画市民ワークショップ 説明資料
 : 現地見学会(10/19実施)意見・質問等

○会議録

開会・挨拶後、オリエンテーションとして、ワークショップの目的と全体スケジュール、本日の進め方について説明された。また、前回ワークショップで出された意見について振り返りを行った。

続いて、オブザーバーからの意見として、「常磐公園改修事業と都市の緑についての提言」についての説明がされた。事業実施の視点として、「まちづくりから見た常磐公園(ソフト面の重要性)」、「自然環境からみた常磐公園(動物の利用への配慮)」等の視点の重要性が指摘された。

次に、資料説明として、現地調査結果から常磐公園の生態系についての説明が行われた。コウモリや鳥類等が樹木をめぐら繁殖場として利用していること等の報告がなされた。また、植栽場所の概要として、植栽場所の現況や工事概要、保全方針、造成後の状況等について説明が行われた。

資料説明の最後に、今回の討議の中心である復元目標の考え方について、手順や条件、参考資料等についての説明が行われた。

その後、グループ討議が行われ、ワークショップに先だって19日に行われた現地見学会等も踏まえた「①現地を知って感じたこと・考えたこと」、植栽計画の基本的な方針となる「②復元する空間はどのような空間にしたいか」の2つについて、活発な意見交換がなされた。復元空間のイメージについては、花、紅葉の楽しめる空間や公園全体との調和、動物への配慮等様々な意見が出された。グループ別の意見発表では、参加者の代表により発表が行われた。

最後に、これらの意見を踏まえた植栽方針を次回ワークショップで提示すること等次回のワークショップの予定について連絡が行われた。

■ Aグループ

現地を知った感想・意見

- 植栽場所が意外に狭いので、常磐公園全体に与える印象まで考えるのは難しいのでは。文学小径とか草花の小径とかテーマ小径にしては。
- よく見るとすでに新芽が勝手に出てきている。
- 移植はお金がかかる。苗木を植えた方が良い。
- 保存木、移植木を戻す事を考慮した場合、新たな植栽木は少数本で良いと感じた。
- 公園が見えない。
- 都心部でオジロワシ、ヤマコウモリ、カワセミ等が見られる。

管理

- ドロノキは動物が使うが危険。折り合いをつけた管理を。
- ドロノキは切った方が良い。腐りやすいいずれ倒れる。それを考えた管理が必要。
- 市民を巻き込んで植栽をしてほしい。
- 植栽を考える視点として「樹種の整理」どの木、どんな木を残して、その木がうまく育つように→楽しくなる木（紅葉する木・実のなる木）。
- 残す木は将来のことを考えて選定する。
- 管理をして木の配置をして欲しい。

基本方針・テーマ

- どこからもみえる、緑だけではない景観。
- 旭川の文学物語のみち。
- 旭橋、大雪山、眺望景観。
- テーマのある小径として（文学など）は？
- 旭川の多くの種を植える。サクラが少ない。
- 季節感、緑の中に桜とイタヤカエデなどを入れた森。
- 外国の木は入れて欲しくない。
- テーマを持った木の植栽（木の実・花）。
- 季節感のある空間にしてほしい。

- 動物が生息できる環境。
- 生物の調査結果を生かしてほしい。
- 生物が住めるように。
- サクラもいいがその他の木も。
- エゾリス等の動物が大切。それを支える植物もいる。

その他

- 計画（堤防部）がちぐはぐ。治水・環境。
- 植栽できない部分があるということを説明会で聞いていない。

■ Aグループ(復元計画)

	全体方針	ゾーン毎の復元テーマ						備考
		ゾーン①	復元テーマ①	ゾーン②	復元テーマ②	ゾーン③	復元テーマ③	
まとめ	百年かけて育つ、楽しめるような	全体	種数・花、季節・動植物への配慮	スロープ	テーマのある小径を、景観を	植栽整理	整理・移植 or 新植・活動づくり	
a	桜の並木と紅葉で季節感のある	全体	春 桜 夏 白い花 秋 紅葉	—	—	—	—	—
b	旭川の文学の心の小径をしのぶような	全体	樹がある、草木が咲く、実がなる（『風景があり橋があり小径（森）があり思い出がある』公園に）	—	—	—	—	—
c	景観を大事にする堤防から公園が良く見えるようにする	階段 スロープ	低木、花、桜を中心とすること	—	—	—	—	残す予定の樹木以外は極力木を少なくする
d	遠くからもここが見える美しく楽しい木々	サクラゾーン	サクラ	実のなる木ゾーン	ミズナラ、ナナカマド	紅葉ゾーン	カエデ	遠く（橋の方向）から見えるように
e	堤防を活用した眺望のよい	全体	エゾヤマザクラ（中径木の植栽）	—	—	—	—	—
f	旭川市民と旭川の自然が1から参加し百年かけて育てる歴史をつくり残す	適所に	市民が1から（苗づくりから）参加できるゾーンを設置する	適所に	シンボルとなる木を護り、引き継ぐゾーンをつくる	—	—	樹洞のある古木の取り扱いについてすぐに切らずに検討するシステムが動物の利用との関係で必要

■ Bグループ

現地を知った感想・意見

- 子供の頃のすばらしいと感じていたイメージと変化していない。
- あまり発展していない。
- 雑然とした印象。
- 管理していない場所。
- まだはっきりとイメージできていない。
- 階段が狭すぎる。
- 堤防に近いところは雑然としている。

基本方針

- 空が見える空間。
- 四季を通じて花木を楽しめる空間。
- 公園の一部として考え、周囲の空間と馴染ませる。
- 樹種の多様性も持たせることが大切。食草を残す。
- 樹種選びは樹種の成長に応じて先駆性・持続性種の双方をいれる。
- 初期段階できちんと目標を決めることが大切。
- 計画的に管理・植栽する。
- 芝が 50%程度の密度でたもつ密度が良い。
- 花の咲く木を全体に入れる。
- 植樹木は保全木の他に+2~3本程度でよいのではないか。
- ツル植（ノブドウ等）でバリエーションをつける。
- 車いすでも楽しめる空間。

ゾーン区分とテーマ

- 園路の周辺には低木&花があるとうれしい。
- 園路沿いは低木、花を植栽。
- スロープ沿いは車いすの目線で考える。
- 階段など芝桜等で花を。
- 園路沿いは彩りをつける。
- この狭い範囲ではゾーン区分は必要ないと思う。
- その他の範囲は、実のつく木=小動物に配慮したゾーンが良い。
- 紅葉の木、実のある木を植えて欲しい。
- 神楽岡公園のような緑や紅葉が見られるゾーンも。

その他

- どの入口から入ってもわかるサインが必要。
- 公園の入り口に昔の写真を入れておく。
- 今昔がわかる説明。
- 旭橋が見える場をつくる。
- 周辺からの動線の検討が必要。
- 緑道通り~常磐公園~当該空間というルートを考慮してはどうか。
- ゴミ拾いとかが管理をしっかりして欲しい。

■ Bグループ(復元計画)

	全体方針	ゾーン毎の復元テーマ						備考
		ゾーン	復元テーマ	ゾーン	復元テーマ	ゾーン	復元テーマ	
まとめ	公園と調和した花咲く	全体	早期緑化、計画的管理、疎林	園路沿い	低木、花、紅葉、サクラ、並木	その他	調和、実のつく、多様、ツル	
a	—	1. 階段・通路	芝桜	2. 3. 4 その他	実のなる木 2~3本 紅葉の強い木 (ドウダンツツジのような) 大きい木は現在のままで	—	—	—
b	公園全体の緑とバランスのとれた緑地化	全体	芝生が弱らない程度に中高木になる木を植える (ツリバナ・ニシキギ・カツラ・カエデ類) 樹種はできるだけ多くして多様化を図る	階段と園路周辺	階段と園路周辺は花、もしくは紅葉する低木などで彩る	—	—	ゾーン別にはしない 初期~中期~回復(段階的な復元)
c	四季を通じて花木を楽しむよう	全体	明るい、木がこみ合わない小さい木	遊歩道近辺	サトザクラなど季節感が出る並木	階段近く	身体に悪い影響を与えない(花粉・綿毛)、白樺×	—
d	色々な花の咲く樹木(花が咲くと実もなる)→動物(小鳥)が寄ってくる	園路沿い	高木よりは中低木でバリエーションを持たせる	その他の空間	植栽木が安定したら蔓性の樹木を植栽(ツルウメモドキ・ノブドウなど)	—	—	—
e	—	公園の入り口	ゾーン毎に現在との比較として昔の写真を看板に掲示して欲しい (年配の人は昔のなつかしさが記憶にあるので) 物語があるように	—	—	—	—	—